

マーケットレポート

11月の全国CPIは市場予想並み

～「生鮮食品を除く食料」は鈍化傾向が継続～

◆エネルギー価格は上昇

19日発表の11月全国消費者物価指数(CPI)は、総合指数が前年同月比+2.9%と前月(+3.0%)から鈍化しました。コアCPI(生鮮食品を除く総合)は同+3.0%と前月と同じ伸び率でした。総合・コアともに市場予想と一致しました。

昨夏頃から指数全体の押し上げ要因になっている「生鮮食品を除く食料」は同+7.0%と4カ月連続で鈍化し、ピークアウト感が鮮明になってきました。米類が同+37.1%と6カ月連続で減速したことなどが背景にあります。

一方、エネルギー価格は同+2.5%と前月(+2.1%)から伸びが加速しました。政府の補助金の終了等に伴い、電気代が+4.9%(前月:+3.5%)に加速したことなどが影響しました。

財とサービスに分けてみると、財は、同+4.0%と前月(+4.2%)から伸びが鈍化しました。賃金動向が反映されやすいとされるサービスは、同+1.6%と前月と同じ伸び率で、引き続き強い加速感はいまありませんでした。

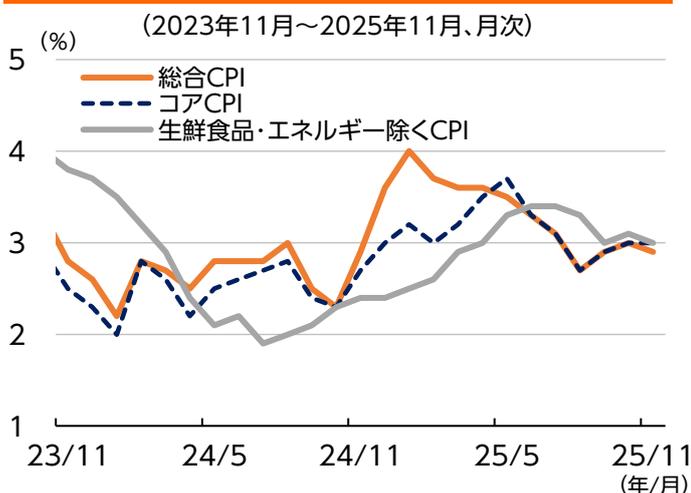
生鮮食品とエネルギーを除く総合は、同+3.0%と市場予想並みとなり、前月(+3.1%)から小幅に減速しました。

◆今後の注目点

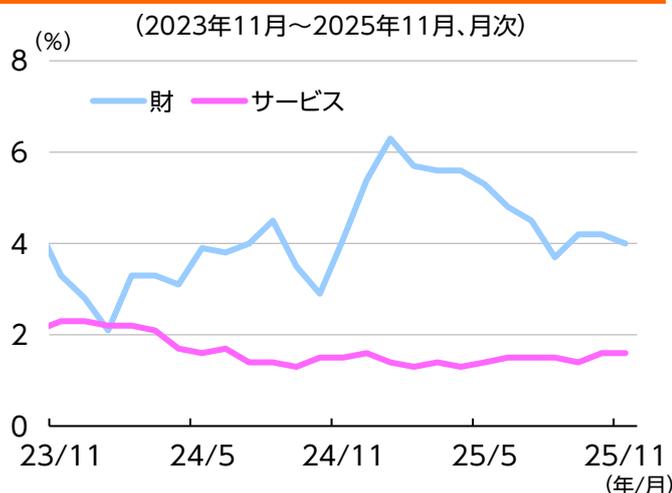
高市政権は、11月に策定した経済対策の裏付けになる2025年度補正予算を17日に成立させました。経済対策には、電気・ガス料金の価格高騰対策などが盛り込まれました。内閣府は、消費者物価総合を、「ガソリン税の当分の間税率(いわゆる暫定税率)」の廃止で最大▲0.3%ポイント押し下げ、さらに「電気・ガス料金負担軽減支援事業」で2026年2～4月の平均で▲0.4%ポイント押し下げると試算しています。また、足元では、地政学リスクの緩和期待などから原油先物価格が4年10カ月ぶりの低水準を更新する場面がありました。

これらの影響により物価が減速していくことが、家計の実質的な購買力の向上に繋がり、高市政権の目指す「強い経済」が実現していくかが注目されます。

CPIの推移(前年同月比)



CPI 財とサービスの推移(前年同月比)



(出所)総務省、およびBloombergのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

【投資に関する留意事項】

◎投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債など値動きのある有価証券等を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。したがってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。

また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

◎投資信託に係る費用について

投資信託にご投資いただくお客様には以下の費用をご負担いただきます。

1. 購入時に直接ご負担いただく費用 (1) 購入時手数料 上限 3.85%(税込) (2) 信託財産留保額 上限 0.1%
2. 換金時に直接ご負担いただく費用 (1) 信託財産留保額 上限 0.5%
3. 保有期間中に間接的にご負担いただく費用 (1) 信託報酬 上限年率 2.09%(税込、概算)

※ファンド・オブ・ファンズ形式の場合は、一部を除き、投資信託が投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。

※一部の投資信託および投資信託証券には運用実績等に基づき計算される成功報酬額が別途かかる場合があります。この場合、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合がありますが、成功報酬額は運用実績等により変動するため、上限額等を事前に表示することができません。

4. その他費用 (1) 上記以外に投資信託の保有期間等に応じてご負担いただく費用(*)があります。これらの費用は、運用状況等により変動するため、料率、上限額等を事前に表示することができません。

(*) 監査費用、有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用、投資信託証券の解約に伴う信託財産留保額、および投資信託が実質的に投資対象とする仕組み債券の価格に反映される費用等

上記の費用の合計額については、お客様が投資信託を保有される期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に表示することができません。

詳細は投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等でご確認ください。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友トラスト・アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、徴収する夫々の費用における最高の料率(作成日現在)を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、夫々の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をご覧ください。

◆設定・運用は



商 号 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第347号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。